

40歳を超えた自閉症の人達の現況調査

この調査は親の会に現存する最も古い名簿（昭和47年東京支部編）557名の会員に対するアンケート調査と、年齢に関係なく数字には表したがたい自閉症問題の困難さを面接・聞き取りで補足するという意図で、いずれも親を対象とした調査です。

調査に際し、アンケート調査にご回答を寄せて下さった皆様、またプライバシーの問題を超えて聞き取り調査にご協力下さった方々に心よりお礼を申し上げます。

全国各地の自閉症児を抱える親たちが手を繋ぎ、全国自閉症児・者親の会を設立してから40年が過ぎました。その間には、専門家や協力者も会員に迎えた社団法人日本自閉症協会が活動を引き継ぎ、会員も現在は1万6千名を越えて今日に至っています。けれども、自閉症の人達への理解や、成人期処遇に対する国・自治体の保障や対策は未だに進んだとは言えません。

不遇の時代を過ごされたにも拘らず、お子様と共に前向きに歩まれてきた親たちの記録は、時代の証言として今後の自閉症福祉の在り方に貴重な役割を果たすものと信じています。

国の制度ではなく、有志で設立した自閉症成人を対象とする施設も、全国自閉症者施設協議会を組織し20年になりました。現在68の会員施設のうち約6割が親たちによって設立され、いずれも厳しい運営の中で自閉症者支援の専門施設として成果を上げています。

この調査研究は、財団法人三菱財団の社会福祉事業の助成金を受けて作成する事ができました。調査の意義をご理解くださり、助成くださった三菱財団に心より御礼申し上げます。

最後に本文にも触れましたが、自閉症児・者親の会の設立に期待し参集した557名の内、約400名余りの親たち（元会員）や、40歳を超えた本人たちの所在・現況が分からなかったという事実は、何よりも重い調査の結果として受け止めています。

平成20年6月

全国自閉症者施設協議会 会長

奥野宏二

三菱財団社会福祉事業助成 代表研究者

石丸晃子